乙 “ナンノ，ナンノ，新工夫の殺人法さ，始終そんな事を詮索してるのだぜ”

甲 “フン，いかんなア，ぢや如何だらう，一つ教へて遣つては！ 古い記錄に澤山有るが”

乙 “面白い……だが止めだ！ マアやらして置くさ，あれで如何にか漕ぎ着けるだらうよ”　〔古いデイリー・ヘラルド紙より〕杉香譯

臺灣の日蝕より歸りて

豫定計畫により，去九月21日の皆既日蝕を觀測するため，同17日出發，門司港にて乘船した．會員井本，飯，坂上，渡木，富谷の諸氏ならびに，藤瀨，吉田の諸氏も日蝕のため同船したので，船中大變賑やかであつた．20日基隆着．臺北の吉村，服部兩氏に迎えられ，先づ臺北に行つて，諸種の打ち合はせをし，又，JFAK より放送（錄音）し，同日18時，觀測地たる富貴角燈臺に到着した．先着者既に多數あつた．直ちに觀測地點選定．同夜は諸方からの來集者約30名と懇親座談會を開いた．

愈々21日，早朝起床．一同張り切つて觀測準備に忙殺された．正午に近づく頃，來集者益々增加し，之れに放送局及び各新聞關係者を加へて，總勢約80名——空は朝少々曇り，其の後漸次晴れ上る．風は東風約6米．12時10分，初虧を首尾よく觀測．しかるに，其の後，東風に送られて積亂雲の來往繁く，漸く觀測の希望淡らぎ，一同悲觀．遂に濃雲に妨げられたまゝ13時41分に皆既は始まつたが，蝕甚の前後から3～4回雲が淡らぎ，立派なコロナを見ることが出來た．寫眞を撮つた人もあるが，此等の成績は少々怪しいと思ふ．さて生光は確實に觀測し，ダイヤモンド・リングは立派だつた．其の後，雲は依然として去らず，15時7分の復圓は結局見えなかつた．

自分は，(1) 時刻の觀測，(2) コロナ外形と黃道光の撮影，(3) 皆既の經過の活動寫眞による撮影をプログラムに組んでゐたが，(1) は半ば成功，(2) は駄目，(3) は可なり成功した.——他の人々も大體同樣．但し，眼視觀測者は可なり立派な收穫を得た模樣である．自分は生光直後に現地放送をした．

觀測終了後，直ちに器械を片付けて，一同相前後して臺北に引き上げ，翌22日，市の公會堂で，臺北支部主催の座談會があり，22時過ぎまで多數來會者が歡を盡した.——それから，23日基隆から乘船，26日早朝田上に歸つた．

今回の觀測については，臺北支部の吉村昌久氏始め會員各位の絕大なる斡旋奔走により，實に豫期以上の成功を獲たことに關し，滿腔の謝意を表する次第である．　(1941—9—28．田上天文臺にて，山本一清)